

巻頭特別企画

Borland Conference 2003 現地レポート

C#Builderに続きDelphi 8の登場で、
ますます加速する.NETの世界



吉田 弘一郎
YOSHIDA, Koichiro



図1: 20周年はBorlandにとっても節目のとき

Microsoftが大接近



11月1日から5日にかけて、シリコンバレーのサンノゼでBorlandカンファレンス（以下BorCon）が開催されました。サンノゼのダウンタウンのど真ん中にある広々としたコンベンションセンターが会場です。ここは広々とした素晴らしい会場。今回のBorConも2000人は参加したようだから、たいしたもの。ただ、ランチにしてもディナーにしても、会場が広すぎて、拍子抜けするような気もしました。予算のない学会で、狭い会場に詰め込まれるのと比べると、天国ですけどね。サンフランシスコやパークレイの喧騒に比べれば、実に快適な会議でしたが、日本を代表するBorCon常連、Micro

house社の石川氏は「景気の良いころは、こんなではなかった」と閑散としたダウンタウンを嘆いていました。

さて、5日間の会期中、最初の2日が入門セミナー、残りがカンファレンスでした。垂れ幕（図1）にあるように、2003年は20周年という記念すべき年です。思えば、CP/M用のTurbo Pascal（図2）が発売されたのは1983年、ちょうどファミコンがブームになったころです。そして、この満20周年のBorConの話題の中心は、Turbo Pascal直系のDelphiの第8版。20年を経た今も、DelphiはBorlandの礎なのです。

ところで、2年前のBorConはSUNが協賛でした。それが、今回は何とMicrosoftなのです。とにかく、BorlandとMicrosoftは、今や完全にラブラブの関係になっていました。そして、2年前

のBorConで話題の中心であったKylixは影も形もありません。そもそも、Linuxそのものが話題にならないという不思議なBorConでした。

その謎が解けたのは、BorConの半ばに発表されたRedHatの一般ユーザー切り捨て宣言。RedHatの社長が「Linuxは未熟であるからデスクトップ用にはWindowsを使え」という捨て台詞を残してエンタープライズ専門会社に変身したのです。

「Linuxはデスクトップ用には使えないが、エンタープライズ用なら可」ということになりますから、実に妙なものです。BorlandもMicrosoftも、このような流れを察知していたらしく、Linuxは視野にないようです。また、このBorCon直前の週はMicrosoftのProfessional Developers Conference 2003

(PDC) で、「Windows 95以来最大の、そしておそらくはWindows史上で最大のリリース」である次期Windows OS (Longhorn) の公式プレビューをしたばかりですから、Windows業界はノリまくっている感じ。開発部隊長である副社長のDavid Intersomone氏 (図3) などは、Matrix Reloadedのネオになって、スクリーンの中を飛びまわっていました。

Microsoftにすれば、2年後に迫った虎の子のLonghornのリリース時に、その機能を駆使するアプリケーションが出揃うことが至上命令。それで、Borlandに大接近したのでしょうか。

出揃ったエンタープライズ開発環境



RedHatがエンタープライズ専門になったように、Borlandもエンタープライズがビジネスの中心であることに変わりはありません。しかし、それは一般ユーザーの切り捨てという形ではなく、エンタープライズユーザーの取り込みという形態をとっています。何年もかけて買収した各種エンタープライズツールを完全に消化し、自社の開発環境に見事に組み込んだところ。そんなエンタープライズ開発環境は3000ドルとかするものですが、BorConに参加すると半額で購入できるので、これもBorCon成功の秘密になっているようです。

ところで、“エンタープライズ” という用語ですが、これにはすでに“色”

図2：なつかしや！ Turbo Pascal CP/M版



図3：副社長兼開発部隊長のDavid Intersomone氏



というか“臭い”が付いています。そこで、Borlandは、「Application Life Cycle」という見方をしていました。なかなか鋭い発想です。

でも、いくらBorlandの技術力を認めても「Borlandではね……」という不安がありました。大規模なソフト構築となると、寄らば大樹の陰で、他のみなさんの使っているツールのほうへ流されがちだったはず。しかし、2003年からは状況が異なります。“異常とも思えるMicrosoftの大接近”のおかげです。Microsoftにとっては、少々Visual Studio .NETのシェアを喰われても、Windows全体が躍進することのほうが遥かに重要なのでしょう。Microsoftのツールに不満の方はBorlandをどうぞという感じでしたから、時代も変わったものです。

いよいよ登場する Delphi 8



現行のDelphi 7がWin32最後のDelphiで、Delphi 8から.NET用になります。.NET用Delphi 8だけでも購入できますが、原則としてWin32用のDelphi 7が付いてきます。

ここで、Delphi 7までのWin32のDelphiプログラムは、基本的にDelphi 8でコンパイルでき、そのまま.NET用プログラムになるというから驚きです。実際、初代Delphi 1のFish Netのデモプログラムを、そのままコンパイルして.NETで実行できました。アンマネージドとかマネージドとか気にすることなく、既存のDelphiプログラムで「きわどいことをしていない」ものであれば、そのまま.NET化できるというのは驚嘆に値するコンパチ度であると思います。